トンボを見に行こう

いろいろな種類のトンボを見るには水辺に行くのが一番。しかし未成熟のトンボは水辺を離れて暮らすので、水のない林や草はらでもトンボを見られることがあります。いろいろなところに出かけ、季節によって見られる種類が変わるトンボの観察を楽しみましょう。

大和の自然ハンドブック⑥

トンボ

大和市

はじめに

トンボは大きな眼に細長い体、4枚の大きなはねをもち、飛ぶことが得意な昆虫です。幼虫は一般にヤゴと呼ばれ、水の中で生活しています。成虫も幼虫も大きなアゴで昆虫など他の生き物を食べる肉食です。

世界には6,000種類以上のトンボがいます。日本では約200種類が記録されていて、神奈川県で約80種類、大和市では46種類が見つかっています（21ページ参照）。このハンドブックでは大和市で見られるトンボの中から、41種類を紹介しています。

大和市には境川と引地川という2本の川が流れており、多くのトンボが見られます。池や学校のプール、田んぼなどもトンボの成虫や幼虫が暮らす重要な場所になっています。この本を片手に、トンボを探してみませんか？

表紙のトンボ

①オナガサナエ♂(Sg)
②ハグロトンボ♂(Kr)
③ショウジョウトンボ♂(Kr)
④コフキトンボ♀(Hg)

羽化後まもないオオヤマトンボ (Ym)

アオモンイトトンボの交尾(Ym)

ハグロトンボの羽化(Iz)

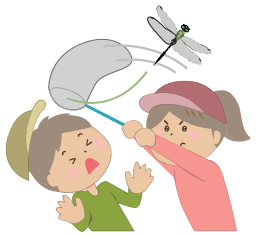
オニヤンマの顔(Nk)

ウチワヤンマの羽化殻(Nk)

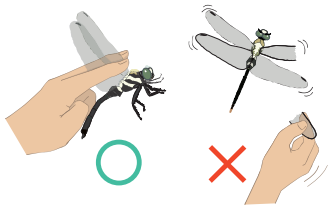
トンボの観察のしかた

トンボを見つけたらおどろかさないようにゆっくり近づこう。トンボは急な動きがきらいだよ。

カメラを持っていたら写真を撮って名前を調べてみよう。



あみを使うときは、まわりの人の迷惑にならないよう、気をつけよう。

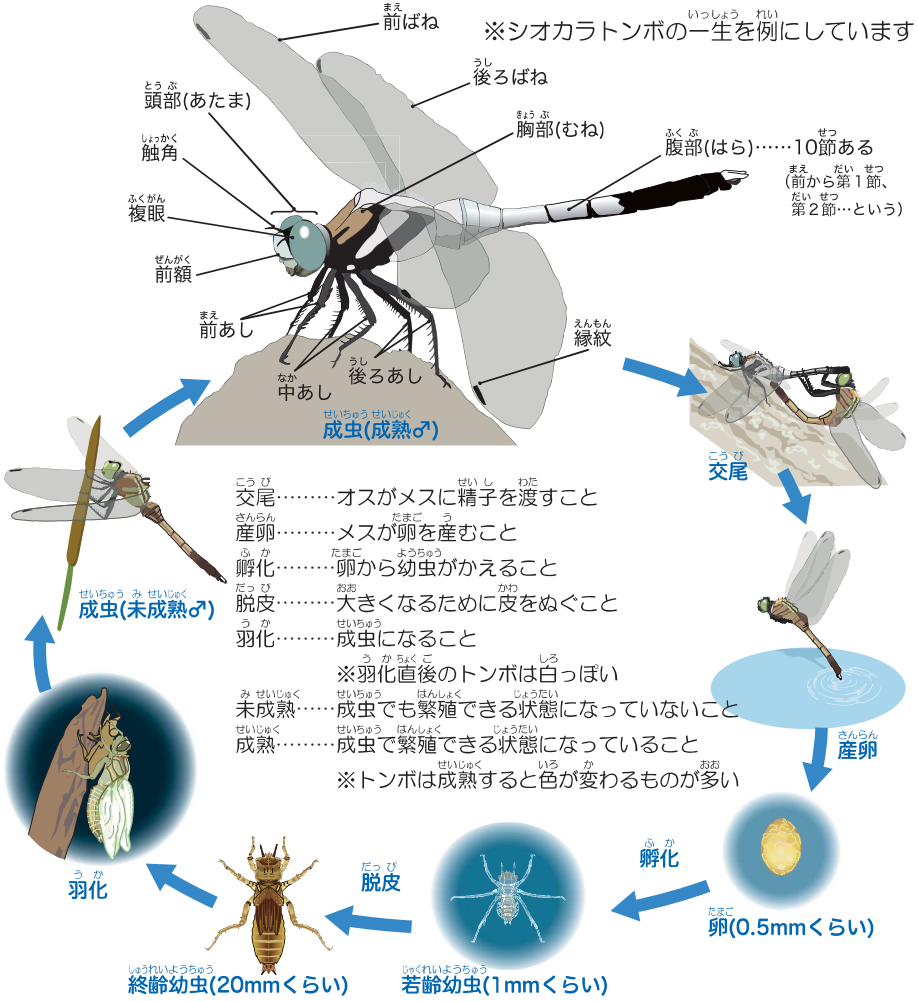


トンボを持つときは4枚のはねをまとめて、はねのつけねをやさしくはさむようにしよう。

観察が終わったらもとの場所に放してあげよう。

トンボの一生とからだのつくり

※シオカラトンボの一生を例にしています



交尾……オスがメスに精子を渡すこと
産卵……メスが卵を産むこと
孵化……卵から幼虫がかえること
脱皮……大きくなるために皮をぬぐこと
羽化……成虫になること
※羽化直後のトンボは白っぽい
未成熟……成虫でも繁殖できる状態になっていないこと
成熟……成虫で繁殖できる状態になっていること
※トンボは成熟すると色が変わるものが多い

トンボの幼虫（ヤゴ）は水の中で暮らしています。トンボはセミやバッタと同じように、さなぎの時期がありません。トンボのように卵→幼虫→成虫と育っていくことを不完全変態といいます。カブトムシやチョウのように卵→幼虫→さなぎ→成虫と育っていくことは完全変態といいます。幼虫は何回も脱皮して大きくなりますが（何年もかかる種類もいます）、小さな幼虫を若齢幼虫といい、トンボになる前の最後の幼虫を終齢幼虫といいます。

この本の見かた

①科の名前

※科とは分類上比較的近い仲間をまとめたグループのことです。この本ではトンボを科ごとに載せています。

②その科のトンボの特徴

※体長（頭部から腹部までの長さ）は大和市にいるトンボの値です。頭部のイラストは斜め上から見たものです。

③トンボの名前

④トンボの写真・イラスト

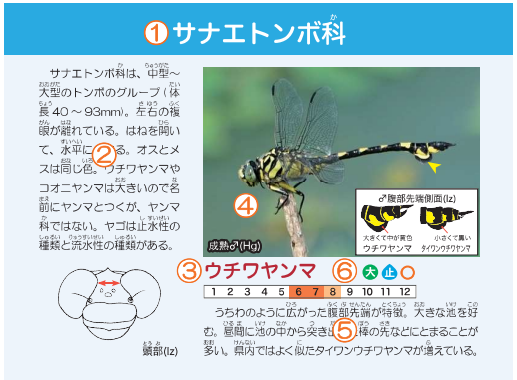
♂はオス、♀はメスを表します。

※写真やイラストの中のアルファベットは、提供者を表します（23ページ参照）。

⑤トンボの説明

⑥名前の右のマークなど

マークの意味は次のとおりです。



トンボの大きさ（体長）

大…ギンヤンマくらいの大きさ（70～110mmくらい）。
中…シオカラトンボくらいの大きさ（35～70mmくらい）。
小…イトトンボくらいの大きさ（25～35mmくらい）。

ヤゴがすむところ

止…止水性。池などほとんど流れがないか、川でもとてもゆるやかな流れの水の中。
流…流水性。川など流れがある水の中。

見つけやすさ…大和市での見つけやすさです。

◎…とてもたくさんいるので、見つけやすい。
○…たくさんいるので、見つけやすい。
△…少ない、または見られる時期が限られるので、見つけにくい。

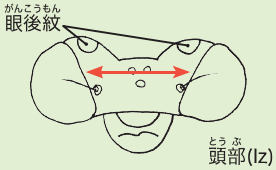
見られる時期…大和市で見られる時期です。他の地域とは異なることがあります。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

数字は月を表します。見られた月に色をつけ、よく見られる月は色を濃くしています。大和市での観察例がとても少ないトンボの場合は、見られた月に●をつけています。

イトトンボ科

イトトンボ科は、小さく細いトンボのグループ（体長24～48mm）。とても小さいので、近くにいても気づかないことが多い。左右の複眼は大きく離れている。複眼の間の紋を眼後紋といい、形や大きさが種類を見分ける時に役立つ。はねを閉じ、水平から斜めにとまる。大和市にいる種類のヤゴはすべて止水性。



アオモンイトトンボ 小 止 ◎

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
						■					

大和市で一番多く見られるイトトンボ。オスの腹部先端は第８節と第９節が青い。メスは未成熟の時はオレンジ色だが、成熟すると茶色くなる。オスと同じ色のメスもいる。

コラム はねの形ととまりかた

大和市のトンボは大きく次の２つのグループに分けられます。

①均翅亜目…前ばねと後ろばねの形がほぼ同じで体がほっそりしている。はねを閉じてとまることが多い。

②不均翅亜目…後ろばねのほうが幅広く体ががっしりしている。はねを開いてとまることが多い。

均翅亜目 (6～9ページ)　不均翅亜目 (10～19ページ)

※大和市にはいないムカシトンボ亜目というグループもあります。

アジアイトトンボ 小 止 ◎

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
			■	■	■	■	■	■	■		

アオモンイトトンボに似ているが、やや小さい。オスの腹部先端は第９節と第10節が青い。メスの腹部上面の黒い筋は胸部との境に届く（アオモンイトトンボは届かない）。

キイトトンボ 中 止 △

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
							●				

他のイトトンボとくらべて腹部が太い。オスの腹部は鮮やかな黄色。オスの腹部先端の上面には黒い紋があるが、メスにはない。大和市ではごく少数が見つかっただけ。

クロイトトンボ 小 止 ○

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
				■	■	■	■	■	■		

オスは成熟すると胸部や腹部先端に青白い粉をふく。体の色はオスは青くメスは緑色だが、オスと同じ色のメスもいる。メスは水に潜って産卵（潜水産卵）することがある。

ホソミイトトンボ 小 止 ○

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
■	■	■	■			■		■	■	■	■

他のイトトンボとくらべて腹部がとても細長い。左右の眼後紋がつながる。成虫で越冬し、オス・メスとも越冬中は茶色だが、越冬後は青くなる。越冬しない夏型もいる。

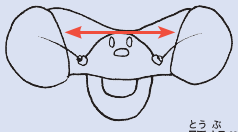
コラム 成虫で冬を越すトンボ

日本には成虫で越冬（冬を越すこと）するトンボが３種類います。いずれも体が小さく細い、ホソミイトトンボ（7ページ）、ホソミオツネントンボ（8ページ）、オツネントンボ（9ページ）で、大和市ではこれら３種類すべてが見つかっています。このうちオツネントンボは2020年に約30年ぶりに泉の森で見つかりました。

越冬前や越冬後にこれらのトンボが見つかることはありますが、動かずに越冬しているトンボを見つけることはむずかしいでしょう。

アオイトトンボ科

アオイトトンボ科は、イトトンボより少し大きなトンボのグループ（体長33～55mm）。体が細いので実際の大きさより小さく見える。左右の複眼は大きく離れている。はねを閉じてほぼ水平にとまることが多い種類と、はねを半開きにして斜めにとまることが多い種類がある。ヤゴはすべて止水性。



頭部(Iz)

オオアオイトトンボ 中 止 ○

1 2 3 4 5 **6 7 8 9 10 11** 12

胸部側面の金緑色の部分は中央の線に届く。未成熟のとき（夏）は暗い森の中にいるのをよく見る。秋遅くに、水の上に張り出した生きている木の枝に産卵する。

アオイトトンボ 中 止 △

1 2 3 4 5 6 7 8 9 **10** 11 12

胸部側面の金緑色の部分は中央の線に届かない。オスは成熟すると胸部や腹部先端に白い粉をふき、複眼が青くなる。水中から出た草の茎などに産卵する。

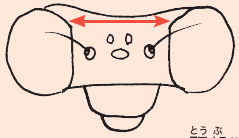
ホソミオツネントンボ 中 止 △

1 2 **3 4** 5 6 7 8 9 **10** 11 **12**

７月ごろに羽化した成虫は茶色い未成熟の状態で冬を越し、春に成熟して水色になり交尾・産卵する。胸部側面には筋はなく点が並ぶ。前ばねと後ろばねの縁紋が重なる。

カワトンボ科

カワトンボ科は、イトトンボを大きくしたようなトンボのグループ（体長47～68mm）。左右の複眼は大きく離れている。ひらひらと飛ぶ。川の近くにいることが多い。はねを閉じてほぼ水平にとまるが、とまっている時にはねを開いたり閉じたりすることがある。ヤゴはすべて流水性。

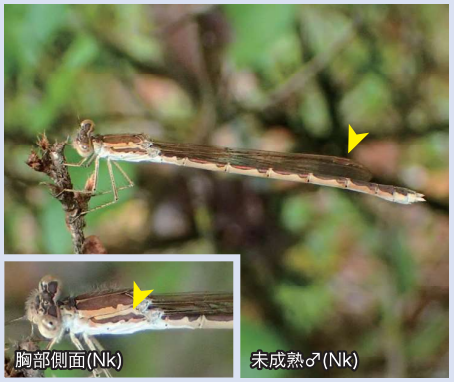


頭部(Iz)

ハグロトンボ 中 流 ◎

1 2 3 4 **5 6 7 8** 9 10 11 12

はねが黒い。はねが黒いトンボは大和市ではほかにいないので区別は簡単。オスの体は金緑色だが、メスの体は黒っぽい。川の水草などに産卵する。はねには縁紋がない。



オツネントンボ 中 止 △

1 2 **3** 4 5 6 7 8 9 10 11 12

ホソミオツネントンボに似ているが、胸部側面に筋があり、前ばねと後ろばねの縁紋が重ならない。成虫で冬を越し、春になって成熟しても体は茶色のまま変わらない。

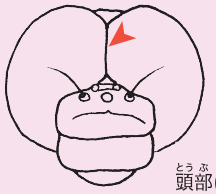
ニホンカワトンボ 中 流 △

1 2 3 4 **5** 6 7 8 9 10 11 12

オスははねが茶色くなるものと透明なものがいる。メスのはねは透明。縁紋は成熟したオスは赤く、メスと未成熟のオスは白い。大和市では成虫が１匹見つかっただけ。

ヤンマ科

ヤンマ科は、大きなトンボのグループ（体長64～93mm）。左右の複眼は広く接している。はねを開いて、ぶら下がってとまるが、休んでいるところを見つけるのはむずかしい。薄暗くなってから活動する種類もある。ヤゴは止水性の種類と流水性の種類がある。



頭部(Iz)

成熟♂と成熟♀(産卵中)(Kr)

ギンヤンマ　大 止 ◎

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

胸部側面は緑色。オスの腹部のつけ根は水色（オスと同じ色のメスもいる）。明るくて大きな池を好む。水草などに産卵するが、オスとメスがつながって産むことが多い。

成熟♂(Kr)

成熟♂(Sg)

成熟♀(Ym)

クロスジギンヤンマ　大 止 ○

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

ギンヤンマに似ているが、緑色の胸部側面に黒い筋がある。オスの複眼は青く、腹部には青い紋が並ぶ。少し暗い小さな池を好み、メスは1匹だけで産卵する。

成熟♂(Sg)

ヤブヤンマ　大 止 △

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

クロスジギンヤンマ同様、少し暗い小さな池を好む。オスは複眼が青い。メスは1匹で水ぎわの地面などに産卵する。大和市では成虫もヤゴもあまり見つかっていない。

成熟♂(Sn)

成熟♀(Sg)

マルタンヤンマ　大 止 △

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

オスの複眼や胸部側面の筋は青い。オス・メスとも日中は茂みなどで木の枝にぶら下がって休み、夕方暗くなってから活発に飛んでエサを食べる（このページのコラム参照）。メスは早朝や夕方に水の中から生える植物の茎に産卵する。成熟したメスのはねは茶色くなる。

成熟♀(Ts)　成熟♀腹部(Ts)

コシボソヤンマ　大 流 △

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

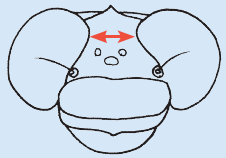
成虫の腰（腹部のつけ根あたり）がとても細いヤンマ（オスで顕著）。大和市ではまだ成虫がメス1匹しか見つかっていないが、泉の森の水源地ではヤゴが見つかっている。

コラム　黄昏飛翔

ヤンマには夏の日没後のうす暗い時（たそがれ）に活発に飛ぶ種類がいます。この時間帯に飛ぶ昆虫を食べたり、オスがメスを探したりするためで、これは黄昏飛翔と呼ばれています。同時にたくさんのヤンマが群れて飛ぶこともあるといい、そのような光景は見ごたえがあるでしょう。泉の森のしらかしの池の上でも多い時には10匹前後のヤンマが飛びます。黄昏飛翔をするヤンマはマルタンヤンマ、ヤブヤンマ、ギンヤンマなど。夕方だけでなく日の出前にも同じような行動が見られます。

サナエトンボ科

サナエトンボ科は、中型～大型のトンボのグループ（体長40～93mm）。左右の複眼が離れている。はねを開いて、水平にとまる。オスとメスは同じ色。ウチワヤンマやコオニヤンマは大きいので名前にヤンマとつくが、ヤンマ科ではない。ヤゴは止水性の種類と流水性の種類がある。



頭部(Iz)

ウチワヤンマ

大 止 ○

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
					6	7	8				

うちわのように広がった腹部先端が特徴。大きな池を好む。昼間に池の中から突き出した棒の先などにとまることが多い。県内ではよく似たタイワンウチワヤンマが増えている。

コオニヤンマ

大 流 ◎

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
					6	7	8	9			

日本最大のサナエトンボ。体に比べて頭部が小さく、複眼の間に２つの小さなトゲがある。あしが長いのが特徴。獰猛で、大きなチョウを捕まえて食べることもある。

ミヤマサナエ

中 流 △

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
				5							

オスは腹部先端付近が広がり、大きな黄色い紋がある。今まで大和市で成虫は羽化したばかりのオス１匹しか見つかっていないが、ヤゴは引地川などで時どき見つかる。

ダビドサナエ

中 流 ◎

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
			4	5							

小さなサナエトンボ。胸部前面の黄色い２つの縦の紋は頭部側の黄色い横の紋と離れるのが普通だが、つながることもある。また、この２つの紋の間に黄色い筋はない。

ヤマサナエ

中 流 ◎

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		3	4	5							

大和市でもっとも多く見られるサナエトンボ。胸部側面に３本の黒い筋があるように見え、胸部前面の黄色い紋はかぎかっこのように曲がる（ミヤマサナエも同様）。

オナガサナエ

中 流 ○

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
				5	6	7	8	9			

オスの腹部先端は大きく膨らみ、その先に長い突起がある。腹部の膨らみの前にある黄色い紋が目立つ。胸部前面の２つの黄色い縦の紋の間に、細く黄色い筋がある。

サナエトンボの見わけかた

胸部側面(左側が頭部)(Iz)

ダビドサナエ

▼の2本の黒い筋がある。

前側の黒い筋が途中までのこともある(右)。

オナガサナエ

2本の黒い筋がつながる。

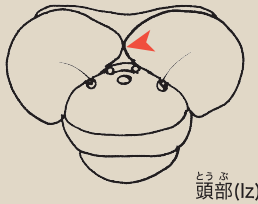
ヤマサナエ

黒い筋が3本に見える。

オニヤンマ科

オニヤンマ科は、とても大きなトンボのグループ（体長82～114mm）。日本本土には１種類しかいない。左右の複眼が１点で接する。はねを開いて、ぶら下がってとまる。オスとメスは同じ色。名前にヤンマとつくが、ヤンマ科ではない。ヤゴは流水性。

成熟♂(Us)


頭部(Iz)

オニヤンマ

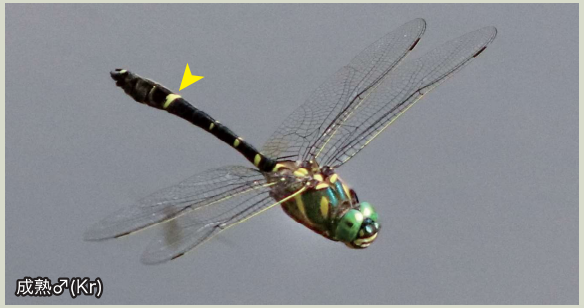
大 流 ○

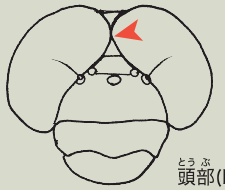
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

日本最大のトンボ。オスは小川の上などを行ったり来たりして縄ばりをはるが、ときにはかなり広範囲になる。メスは流れの砂底や泥底に腹部先端を突き刺すように産卵する。

ヤマトンボ科

ヤマトンボ科は、ヤンマ科と同じくらい大きなトンボのグループ（体長78～92mm）。左右の複眼が狭く接している。はねを開いて、ぶら下がってとまる。オスとメスは同じ色。大和市にいる種類のヤゴは止水性。


成熟♂(Kr)


頭部(Iz)

オオヤマトンボ

大 止 ○

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

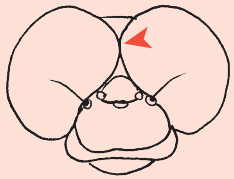
遠目にはオニヤンマのように見えるが、胸部の黒く見える部分は実際には金緑色をしている。腹部の黄色い紋が目立つ。オスは池のふちに沿って飛びながら縄ばりをはる。

トンボ科

トンボ科は、中型のトンボのグループ（体長30～61mm）。左右の複眼がやや広く接している。はねを開いて、ほぼ水平にとまる種類が多い。多くの種類でオスとメスの色が違う。ヤゴは止水性の種類が多いが、流水性の種類もいる。

成熟♂(Og)

成熟♀(Nk)


頭部(Iz)

シオカラトンボ

中 止 ◎

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

オスは粉をふいて白っぽくなる。メスと未成熟のオスは明るい茶色で、通称ムギワラトンボ。複眼はオスが水色で、メスが緑色。はねのつけ根に色はなく、縁紋は黒い。

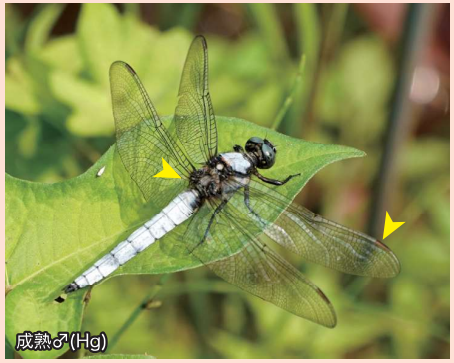
成熟♂と成熟♀(Kr)

オオシオカラトンボ

中 止 ◎

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

オス・メスともにシオカラトンボより色が濃く、粉をふいたオスは青っぽく見える。はねのつけ根が黒いことも特徴。複眼は黒っぽい。ややうす暗いところを好む。


成熟♂(Hg)

シオヤトンボ

中 止 △

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

４月に見られる、シオカラトンボを小さくしたようなトンボ。オスは全身に粉をふいて白っぽくなる。メスの体の色は黄色。はねのつけ根がオレンジ色で、縁紋は黄褐色。

トンボ科

16～17ページの８種類はアカトンボの仲間（アカネ属）

アキアカネ

中 止 ◎

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
					■		■	■	■		

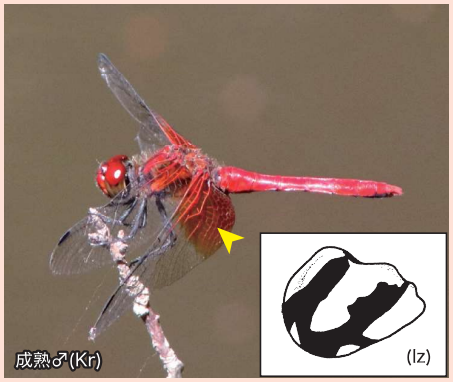
初夏に羽化した成虫は山に移動し、秋に戻ってくる。成熟したオスは腹部だけ赤くなる。胸部側面の中央の黒い筋は上に向かって、だんだん細くなることが多い。

ナツアカネ

中 止 ◎

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
						■	■	■	■		

成熟したオスは胸部まで赤くなる。胸部側面の中央の黒い筋は途中でスパッと切れるように終わる。名前にナツ（夏）とつくが、秋に多く見られる。

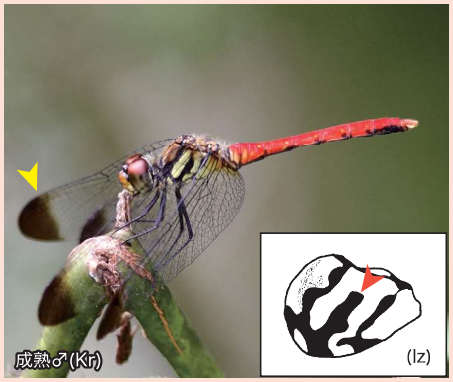


ネキトンボ

中 止 ◎

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
					■	■	■	■			

はねのつけ根が濃いオレンジ色になる。成熟したオスは頭部まで真っ赤になる点などショウジョウトンボ（18ページ）に似ているが、ネキトンボには胸部側面に黒い筋がある。



リスアカネ

中 止 ○

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
						■	■	■			

はねの先が黒い。成熟したオスは腹部だけ赤くなる。ノシメトンボ（右）に似ているが、胸部側面の中央の黒い筋は胸部上端に届かない。ややうす暗いところを好む。

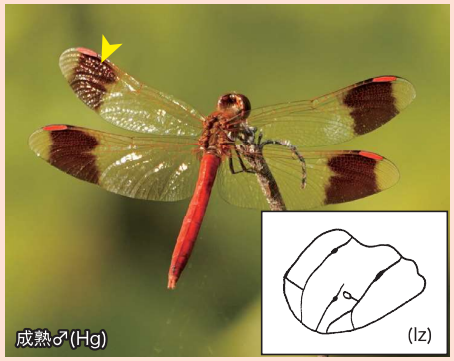
※アカトンボで赤くなるのは成熟したオスのみ。メスや未成熟のオスはオレンジ色をしている。

マユタテアカネ

中 止 ○

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
							■	■	■		

前額にまゆのような模様（眉斑）がある。はねの先が黒くなるメスもいる。成熟したオスは腹部だけ赤い。オスの腹部先端は強くそり返る。胸部側面の中央の黒い筋は細い。

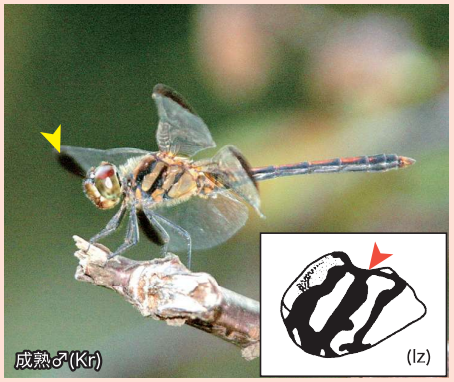


ミヤマアカネ

中 流 △

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
							■	■			

はねの先端近くに褐色の帯がある（先端は透明）。胸部側面には黒い筋がない。他のアカトンボのヤゴは流れのない池や田んぼにいるが、ミヤマアカネはゆるやかな流れにいる。



ノシメトンボ

中 止 △

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
							■				

はねの先が黒い。オスは成熟しても赤くならない。オス・メスとも眉斑があるものとないものがいる。リスアカネ（左）に似ているが、胸部側面の中央の黒い筋は上端に届く。

コノシメトンボ

中 止 ○

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
							■	■	■		

はねの先が黒い。成熟したオスは全身が赤くなり、はねの先が黒いアカトンボの中ではもっとも鮮やか。眉斑はメスにだけある。胸部側面の２本の黒い筋は上方でつながる。

ショウジョウトンボ 中 止 ◎

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
				■	■	■	■	■			

オスは全身が真っ赤になるがアカトンボの仲間（アカネ属）ではない。ネキトンボ（16ページ）に似ているが、ショウジョウトンボは胸部側面に黒い筋がないので区別できる。

コシアキトンボ 中 止 ◎

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
				■	■	■	■	■			

真っ黒な体で、成熟したオスは腰に見える部分（腹部のつけ根）が白い。メスや未成熟のオスではその部分が黄色っぽい。オスは水際を飛びながら縄ばりをはる。

ウスバキトンボ 中 止 ◎

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
					■	■	■	■	■		

体がオレンジ色なので、アカトンボに間違われやすい。複眼が大きく、後ろばねが幅広い。広場の上を群れで飛んでいることが多く、とまる時は斜めにぶら下がる。

コラム 冬を越せないウスバキトンボ

毎年、秋にたくさん見るウスバキトンボは、幅広い後ろばねで風を受け、海を渡るほど長距離を飛べます。このため世界のもっとも広い範囲で見られるトンボになっています。ウスバキトンボは幼虫で冬を越しますが、冬を越せるのは、日本では沖縄など暖かい地方だけ。大和市あたりでは冬を越せません。暖かい地方で冬を越したウスバキトンボは短期間で世代をくり返しながら北を目指し（暖かい地方にとどまるものもいます）、冬には死に絶えてしまうということを繰り返しているのです。

コフキトンボ 中 止 ○

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
					■	■	■				

シオカラトンボに似ているが腹部が短く、胸部側面の模様が複雑。成熟すると胸部・腹部全体に白っぽい粉をふく。メスの中にはオビトンボ型と呼ばれるものがいる。

ハラビロトンボ 中 止 △

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
					●						

腹部が短くて幅広く（メスで顕著）、オス・メスとも前額には青藍色の金属光沢がある。はねのつけ根がうすいオレンジ色。大和市では1987年と2017年の記録しかない。

チョウトンボ 中 止 △

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
						●	●	●			

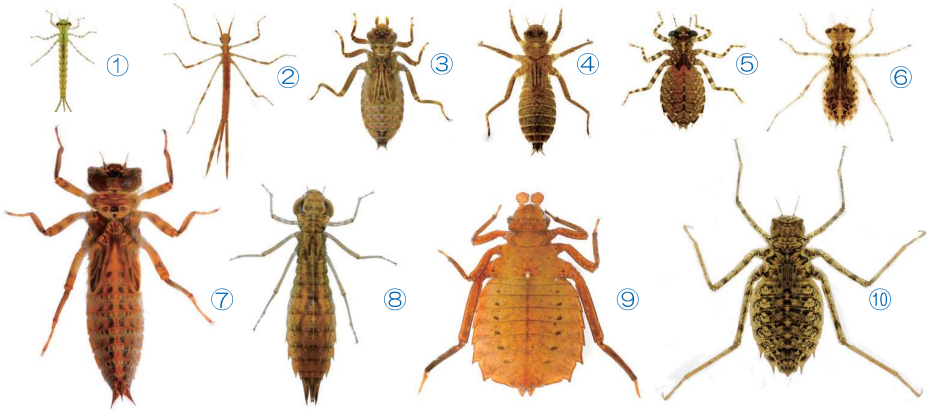
後ろばねがとても幅広く、チョウのようにひらひらと飛ぶ。はねは全体に黒っぽい（オスは青紫色に輝く）。オス・メスとも前ばねの先が透明で、メスは後ろばねの先も透明。

コラム トンボの縄ばり

成熟したトンボのオスは、メスが来そうな水辺に縄ばりをはります。縄ばりをはるオスは、他のオスが縄ばりに入ると激しく追いはらい、メスが来ると交尾しようとします。縄ばりのはりかたはトンボの種類によって違います。

縄ばりのはりかた	トンボの種類
葉先や枝先、石の上にとまる（パーチャー）	均翅亜目 サナエトンボ科 トンボ科の多く
一定の範囲を飛び続ける（フライヤー）	ヤンマ科 オニヤンマ科 ヤマトンボ科 トンボ科の一部

トンボのヤゴいろいろ



①クロイトトンボ　②ハグロトンボ　③ダビドサナエ　④シオカラトンボ　⑤コシアキトンボ　⑥コノシメトンボ
⑦オニヤンマ　⑧ギンヤンマ　⑨コオニヤンマ　⑩オオヤマトンボ　（⑥はWt、他はすべてTs）

トンボの成虫はみな細長い体をしていますが、幼虫（ヤゴ）はさまざまな形をしたものがいます。ヤゴは水の中でエサを待ちぶせしていますが、水草にとまっているもの、水底にいるもの、土や砂の中にもぐっているものなど、待ちぶせの方法は種類によって決まっています。生活のしかたに合わせて、ヤゴの形も違っているのです。

コラム　トンボをめぐる環境と私たち

大和市は1988年から1990年にかけて生き物の調査を行いました。その時に見つかったトンボは24種類。その中で流水性のトンボは2種類だけでした。

1990年ごろの川岸はコンクリートで固められ、生活排水が流れ込み、ゴミが捨てられ、とても汚れていました。ふれあいの森で大和市が引地川の三面コンクリートをはがし、多自然型護岸の川を生み出したのが1993年。その後の下水道整備、市民による川のゴミ拾いや保全活動などにより、川は清流をとり戻しました。

川がきれいになると大和市で絶滅したといわれたハグロトンボをはじめ、さまざまなトンボが姿を見せてくれるようになりました。2000年以降に確認された44種類の中でも流水性のトンボの割合が増え、11種類も確認されるようになりました。

幼虫（ヤゴ）の時は水の中で暮らし、成虫になると水辺だけでなく森や草むらでも暮らすトンボには水辺と周辺の豊かな環境が必要です。環境が悪くなれば、トンボは姿を消してしまいます。これからもトンボがすめる環境をみんなで守り育てることが大切です。

トンボをめぐる食べる食べられるの関係

トンボは肉食の昆虫で、成虫は他の昆虫やクモ、幼虫（ヤゴ）はミジンコやイトミミズ、水生昆虫や小魚など他の生き物を食べます。しかしトンボ自身も他の生き物に食べられることがあるのです。トンボを食べる生き物（天敵）は、幼虫のときは魚やザリガニ、成虫のときはカマキリやクモ、野鳥など。さらにトンボが別の種類のトンボを食べることもあります。食べる・食べられるの関係を食物連鎖といいますが、トンボも食物連鎖の中で生きているのです。

カイツブリに食べられるギンヤンマ

ジャコウアゲハを食べるコオニヤンマ

シオカラトンボに食べられるアオイトトンボ

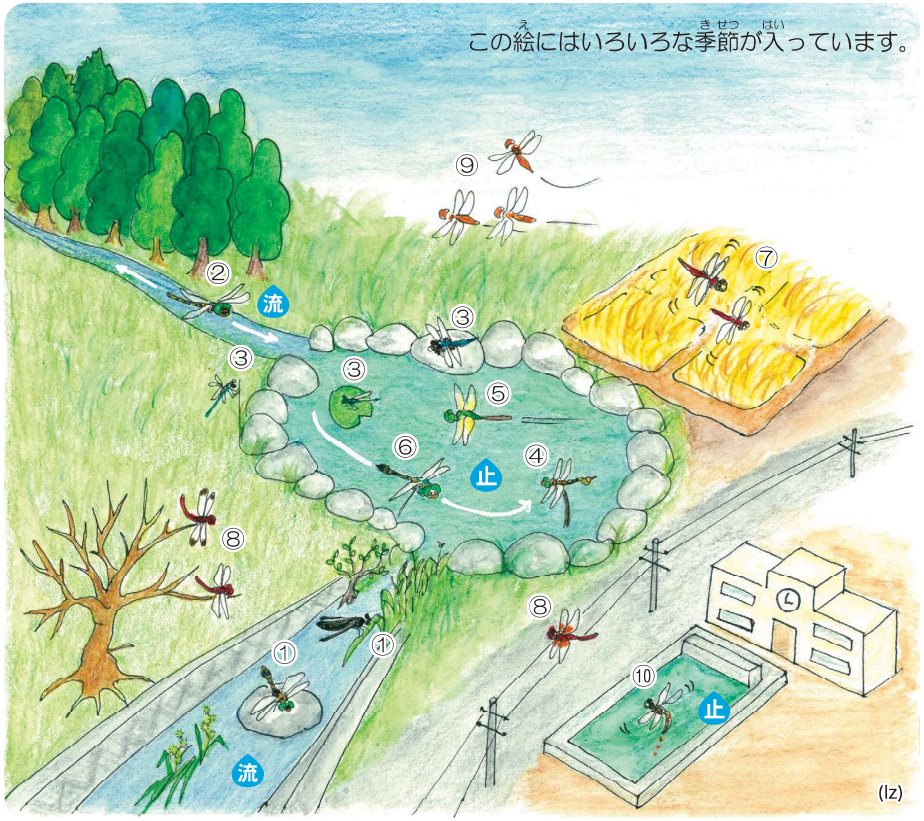
ジョロウグモに食べられるアキアカネ

大和市のトンボ一覧　分類順

科	種類	備考
アオイトトンボ科	オツネントンボ	1988年と2020年のみ
	ホソミオツネントンボ	
	アオイトトンボ	
	オオアオイトトンボ	
カワトンボ科	ニホンカワトンボ	2012年のみ
	ハグロトンボ	
イトトンボ科	キイトトンボ	2019年のみ
	クロイトトンボ	
	ムスジイトトンボ	2016年と2020年のみ
	ホソミイトトンボ	
	アオモンイトトンボ	
	アジアイトトンボ	
ヤンマ科	コシボソヤンマ	成虫は2021年のみ
	マルタンヤンマ	
	ヤブヤンマ	
	ギンヤンマ	
	クロスジギンヤンマ	
サナエトンボ科	ウチワヤンマ	
	コオニヤンマ	
	オナガサナエ	
	アオサナエ	2018年のみ
	ダビドサナエ	
	ミヤマサナエ	成虫は2008年のみ
	ホンサナエ	2019年のみ
	ヤマサナエ	
オニヤンマ科	オニヤンマ	
ヤマトンボ科	オオヤマトンボ	
トンボ科	チョウトンボ	
	ナツアカネ	
	リスアカネ	
	ノシメトンボ	
	アキアカネ	
	コノシメトンボ	
	ヒメアカネ	1988～1990年のみ
	マユタテアカネ	
	ミヤマアカネ	
	ネキトンボ	
	ハネビロトンボ	1990年のみ
	コシアキトンボ	
	コフキトンボ	
	ショウジョウトンボ	
	ウスバキトンボ	
	ハラビロトンボ	1987年と2017年のみ
	シオカラトンボ	
	シオヤトンボ	
	オオシオカラトンボ	

大和市が実施した1988～1990年の調査を基にした報告書「大和市の昆虫」に掲載されている記録（1987年は文献記録）と、2000年以降のしらかしのいえボランティアおよび自然観察センター・しらかしのいえ職員の観察記録をまとめた。

トンボがくらす場所



①小川の水辺の草や石の上	ハグロトンボ、コオニヤンマなどのサナエトンボの仲間など
②小川の上	オニヤンマ
③池の水辺の草や石の上	トンボ科のトンボ、コオニヤンマ、イトトンボの仲間など
④池の水から突き出た棒の上	ウチワヤンマ、トンボ科のトンボなど
⑤池の上	ギンヤンマなど　※クロスジギンヤンマはうす暗くて小さい池
⑥池のふちの上	オオヤマトンボ、コシアキトンボなど
⑦田んぼ	アカトンボの仲間など
⑧木の枝の先や電線	アカトンボの仲間など
⑨広場の上	ウスバキトンボなど
⑩学校のプール	アカトンボの仲間、ギンヤンマなど

※田んぼや畑には持ち主がいます。かってに入ってはいけません。

さくいん

ア アオイトトンボ ……8、21
アオモンイトトンボ ……2、6
アキアカネ ……16、21
アジアイトトンボ ……6
ウスバキトンボ ……18
ウチワヤンマ ……2、12
オオアオイトトンボ ……8
オオシオカラトンボ ……15
オオヤマトンボ ……2、14、20
オツネントンボ ……9
オナガサナエ ……13
オニヤンマ ……2、14、20
カ キイトトンボ ……7
ギンヤンマ ……10、20、21
クロイトトンボ ……7、20
クロスジギンヤンマ ……10
コオニヤンマ ……12、20、21
コシアキトンボ ……18、20
コシボソヤンマ ……11
コノシメトンボ ……17、20
コフキトンボ ……19
サ シオカラトンボ ……4、15、20、21
シオヤトンボ ……15
ショウジョウトンボ ……18
タ ダビドサナエ ……13、20
チョウトンボ ……19
ナ ナツアカネ ……16
ニホンカワトンボ ……9
ネキトンボ ……16
ノシメトンボ ……17
ハ ハグロトンボ ……2、9、20
ハラビロトンボ ……19
ホソミイトトンボ ……7
ホソミオツネントンボ ……8
マ マユタテアカネ ……17
マルタンヤンマ ……11
ミヤマアカネ ……17
ミヤマサナエ ……12
ヤ ヤブヤンマ ……10
ヤマサナエ ……13
ラ リスアカネ ……16

参考文献　「大和市の昆虫」大和市動植物総合調査会編 1991 年 大和市教育委員会発行
「神奈川県昆虫誌 2018[I]」神奈川昆虫談話会編 2018 年 神奈川昆虫談話会発行
「神奈川県昆虫誌 2004[I]」神奈川昆虫談話会編 2004 年 神奈川昆虫談話会発行
「かながわの自然図鑑②昆虫」神奈川県立生命の星・地球博物館編 2000 年 有隣堂発行
「ネイチャーガイド 日本のトンボ 改訂版」尾園暁ら著 2021 年 文一総合出版発行
「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」石田昇三ら著 1988 年 東海大学出版会発行
「ヤゴハンドブック」尾園暁ら著 2019 年 文一総合出版発行

引用文献　「身近なヤゴの見分け方」梅田孝著 2016 年 世界文化社発行

2022 年 3 月発行

禁無断複製・転載

●発　　行：大和市（環境施設農政部みどり公園課）
〒 242-8601 神奈川県大和市下鶴間 1-1-1　☎ 046-260-5451
●編　　集：（公財）大和市スポーツ・よか・みどり財団
大和市自然観察センター・しらかしのいえ　石丸勇介、歳清勝晴
〒 242-0029 神奈川県大和市上草柳 1728　☎ 046-264-6633
●監　　修：田口正男（東京農業大学昆虫学研究室客員研究員、明星大学理工学部環境科学系非常勤講師）
●編集協力：しらかしのいえボランティア協議会：飯塚栄子、臼田恒二、小川寿美子、清水頭佑人、中村美津子、萩原尚治
●調査協力：佐野真吾（観音崎自然博物館）、諏訪部晶（神奈川トンボ調査・保全ネットワーク）、山田陽治（自然体験教育研究会 NEES）
●写　　真：飯塚栄子 (Iz)、臼田恒二 (Us)、小川寿美子 (Og)、黒河監 (Kr)、佐野真吾 (Sn)、清水頭佑人 (Sg)、歳清勝晴 (Ts)、中村美津子 (Nk)、萩原尚治 (Hg)、山崎治雄 (Ym)、渡利純也 (Wt)
●イラスト：飯塚栄子 (Iz)
●印　　刷：株式会社連合社印刷